

第48回総会ならびに学術講演会予告（最終回）

学会会員殿

第48回日本産科婦人科学会総会ならびに学術講演会を下記のように開催いたします。

I. 期 日：平成8年4月6日（土）、7日（日）、8日（月）、9日（火）

II. 会 場：パシフィコ横浜（国立大ホール、会議センター、展示ホール）
（横浜市西区みなとみらい1-1-1）

III. 日 程：

4月6日（土）	生涯研修プログラム、視聴覚セッション 評議員会、総会、懇親会
4月7日（日）	教育講演、会長講演 招請講演、特別講演 シンポジウム
4月8日（月）	一般講演、ポスターセッション インターナショナルセッション
4月9日（火）	一般講演、ポスターセッション

IV. 招請講演

Cellular Basis of the GnRH Pulse Generator

演者：Department of Obstetrics, Gynecology and Reproduction
University of California San Francisco

Professor R.I. Weiner 君

V. 特別講演

1) 受精機構の解明と生殖補助医療への応用

演者：山形大学教授 廣井 正彦 君

2) 着床機構に関する研究

演者：福井医科大学教授 富永 敏朗 君

VI. シンポジウム

婦人科癌の浸潤と転移—その基礎と臨床—

座長：慶應義塾大学教授 野澤 志朗 君

久留米大学教授 薬師寺道明 君

演 者（五十音順）

卵巣癌における転移能の獲得と変調の機序に関する研究

- | | | |
|-------------------------------|----------|---------|
| 婦人科癌組織および細胞株におけるマトリックス分解酵素の | 九州大学助教授 | 嘉村 敏治 君 |
| 分泌調節機構—転移阻止へのアプローチ— | 名古屋大学講師 | 吉川 史隆 君 |
| 癌細胞の細胞外マトリックス破壊の機序とその制御による浸潤, | | |
| 転移抑制 | 浜松医科大学助手 | 小林 浩 君 |
| 婦人科悪性腫瘍の浸潤・転移における内分泌関与 | 岐阜大学講師 | 藤本 次良 君 |

VII. 教育講演

- | | | |
|------------------------|-----------|---------|
| 1) 胎児呼吸循環調節の基礎と臨床 | 東京大学助手 | 上妻 志郎 君 |
| 2) 早産の予防 | 浜松医科大学教授 | 寺尾 俊彦 君 |
| 3) 単一排卵誘発法による多胎の予防 | 徳島大学教授 | 青野 敏博 君 |
| 4) GnRH の基礎と臨床 | 横浜市立大学助教授 | 植村 次雄 君 |
| 5) レーザーの基礎研究への応用と新しい展開 | 大阪大学助手 | 田坂 慶一 君 |
| 6) 癌細胞の特性と行動 | 日本大学講師 | 坂元 秀樹 君 |

VIII. 会長講演

- | | | |
|----------------|----------|---------|
| 婦人科における骨粗鬆症の管理 | 横浜市立大学教授 | 水口 弘司 君 |
|----------------|----------|---------|

IX. 生涯研修プログラム

1. レクチャーシリーズ

A.

- | | | |
|---------------|-----------------|---------|
| 1) 受精卵の遺伝子診断 | 鹿児島大学教授 | 永田 行博 君 |
| 2) 避妊法の実際 | 日本家族計画協会クリニック所長 | 北村 邦夫 君 |
| 3) 習慣流産の病態と治療 | 横浜市立大学講師 | 平原 史樹 君 |
| 4) 心身症の扱い方 | 慶應義塾大学非常勤講師 | 堀口 文 君 |

B.

- | | | |
|-------------------------|--------------|---------|
| 1) ヒトパピローマウイルスと子宮頸部前癌病変 | | |
| | 広島大学講師 | 永井 宣隆 君 |
| 2) 卵巣癌治療後の妊孕性 | 東京大学助教授 | 滝沢 憲 君 |
| 3) 先天異常モニタリング | 横浜市愛児センター所長 | 住吉 好雄 君 |
| 4) 新生児の呼吸異常 | 国立小児病院新生児科医長 | 河野 寿夫 君 |

2. クリニカルカンファランス

A.

- | | | |
|----------------|--------------|---------|
| 1) 妊娠中毒症の病態と管理 | 奈良県立医科大学教授 | 森川 肇 君 |
| 2) 羊水量の異常 | 大阪市立大学教授 | 荻田 幸雄 君 |
| 3) 産科 DIC の管理 | 聖マリアンナ医科大学教授 | 雨宮 章 君 |

B.

- | | | |
|-----------|--------|---------|
| 1) 子宮体癌検診 | 北里大学教授 | 蔵本 博行 君 |
|-----------|--------|---------|

- | | | |
|----------------|------------|---------|
| 2) 思春期における月経異常 | 東京女子医科大学教授 | 黒島 淳子 君 |
| 3) HIV 母子感染 | 都立大塚病院医長 | 宮澤 豊 君 |
3. ミートザエキスパート
- A.
- | | | |
|-----------------------|-----------|---------|
| 1) 乳癌検診—マンモグラフィーと超音波— | 帝京大学助教授 | 土橋 一慶 君 |
| 2) 卵・初期胚の形態と quality | 東海大学助教授 | 井上 正人 君 |
| 3) 腹腔鏡下腔式子宮全摘術 | 順天堂大学講師 | 武内 裕之 君 |
| 4) 経腔超音波の活用 | 日本医科大学助教授 | 石原 楷輔 君 |
- B.
- | | | |
|-------------------------------------|------------|---------|
| 1) 子宮内膜症の各種病変 | 大阪医科大学教授 | 植木 實 君 |
| 2) 抗癌剤の増量効果 | 癌研究会附属病院部長 | 荷見 勝彦 君 |
| 3) 尿失禁の手術療法 | 信州大学泌尿器科教授 | 小川 秋實 君 |
| 4) Assisted Reproductive Technology | 山形大学助教授 | 斉藤 英和 君 |
4. 視聴覚セッション
- | | | |
|-------------|---------|---------|
| 1) 卵巣癌の手術療法 | 久留米大学教授 | 薬師寺道明 君 |
| 2) 産科超音波診断 | 東京大学教授 | 武谷 雄二 君 |
5. 専門委員会報告 (パネル)
- | | |
|--------------|---------|
| 1) 生殖・内分泌委員会 | 廣井 正彦 君 |
| 2) 婦人科腫瘍委員会 | 工藤 隆一 君 |
| 3) 周産期委員会 | 神保 利春 君 |
| 4) 教育・用語委員会 | 荒木 勤 君 |
| 5) 社会保険学術委員会 | 野澤 志朗 君 |

X. 一般講演・ポスターセッション・インターナショナルセッション

公募は平成7年10月5日(木)をもって締切りました。応募された一般講演とポスターセッションならびにインターナショナルセッションの採否は、学術企画委員会の選考を経て、平成7年12月2日(土)の理事会で決定され、一般講演472題、ポスターセッション296題、インターナショナルセッション(国内分)31題の採用が決定されました。採否通知の発送は完了しています。

XI. 学術講演会用の抄録集について

平成8年2月発刊の本会機関誌増刊号が第48回日本産科婦人科学会の学術講演会用抄録集になる予定です。

1. 一般講演・ポスターセッション・インターナショナルセッション

採用が決定した一般講演とポスターセッションならびにインターナショナルセッションについては演題申込みの際に提出していただいた講演要旨がフォ

トコピーでそのまま抄録集として掲載されます。

2. 特別講演・教育講演・シンポジウム・生涯研修プログラム
各演者から提出された講演要旨を掲載します。

XII. 演者へのご注意

1. 招請講演・特別講演・シンポジウム・教育講演の演者に対するご注意

- (1) 講演終了2分前に青灯, 終了時には赤灯およびブザーでお知らせします。
講演時間は厳守して下さい。
- (2) 演者は講演開始30分前までにスライド受付にスライドを提出して下さい。
- (3) 演者は会場内の次演者席に必ず着席して下さい。
- (4) スライド映写機は2台用意します。スライド枚数はとくに制限ありません。
- (5) スライド作製上のご注意
一般講演の場合と同じように作製して下さい。
2台使用の時は左右の別を記入し, 左右別々に揃えて下さい。一方だけ映写し, 他方を暗くするときは黒のスライド(黒のフィルムまたは黒紙)を並べ, 左右のスライドを常に同時に送れるようにして下さい。
- (6) スライド受付にホルダーと試写用の映写機が用意してありますので各自でホルダーにスライドを入れ試写して確かめて下さい。
- (7) スライドは講演終了後にスライド受付で引換券と交換に返却しますので必ずお受け取り下さい。
- (8) スライド映写は原則としてスライド係が行いますが, 演者側で映写を希望される場合は, あらかじめスライド受付に申出て下さい。
- (9) スライド送りは演者の合図により行い, スライド係用原稿によるものは受け付けません。なおスライドの逆戻しはできません。

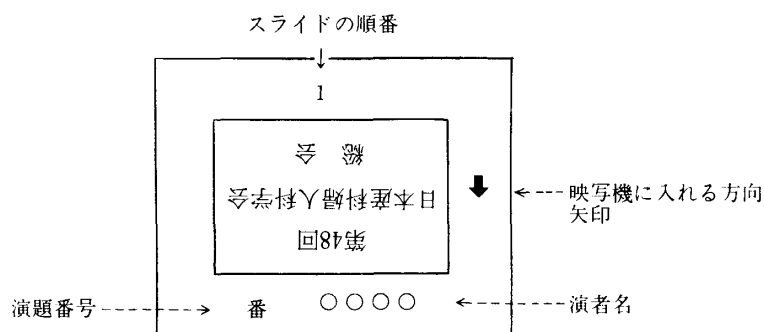
2. 生涯研修プログラムの演者に対するご注意

- (1) 講演終了2分前に青灯, 終了時には赤灯およびブザーでお知らせします。
講演時間は厳守して下さい。
- (2) 演者は講演開始30分前までにスライド受付にスライドを提出して下さい。
- (3) 演者は会場内の次演者席に必ず着席して下さい。
- (4) スライド映写機は1台用意します。スライド枚数はとくに制限ありません。
- (5) スライド作製上のご注意
一般講演の場合と同じように作製して下さい。

- (6) スライド受付にホルダーと試写用の映写機が用意してありますので各自でホルダーにスライドを入れ試写して確かめて下さい。
- (7) スライドは講演終了後にスライド受付で引換券と交換に返却しますので必ずお受け取り下さい。
- (8) スライド映写は原則としてスライド係が行いますが、演者側で映写を希望される場合は、あらかじめスライド受付に申出て下さい。
- (9) スライド送りは演者の合図により行い、スライド係用原稿によるものは受付けません。なおスライドの逆戻しはできません。

3. 一般講演演者へのご注意

- (1) 講演時間は6分で、講演終了1分前に青灯、終了時には赤灯およびブザーでお知らせします。講演時間は厳守して下さい。講演時間切れと同時に演者は発言を中止して座長の指示に従って下さい。討論時間は4分です。
- (2) 演者は各群の開始30分前までにスライドを必ずスライド受付に提出して下さい。
- (3) 演者は会場内の次演者席に必ず着席して下さい。
- (4) 講演を終了した演者はその群の終了まで待機して下さい。
- (5) スライド映写機は1台用意します。一般講演のスライド枚数は1題につき10枚以内とし、それ以上は受付けません。
- (6) スライド作製上のご注意
 - a) 図、表、写真はすべて35mm版スライドにして下さい。
 - b) 各スライドは図のように映写機に入れたとき正しく映写されるように矢印をつけ必要事項を記入して下さい。
プラスチック枠使用のときは油性サインペンで書いて下さい。
 - c) スライドはなるべく横書きにして下さい。

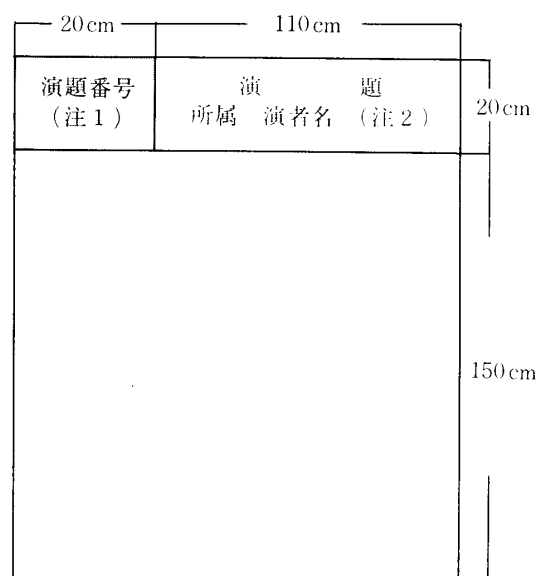


- (7) スライド受付にホルダーと試写用の映写機が用意してありますので各自でホルダーにスライドを入れ試写して確かめて下さい。

- (8) スライドは講演終了後にスライド受付で引換券と交換に返却しますので必ずお受け取り下さい。
- (9) スライド映写はスライド係が行います。
- (10) スライド送りは演者の合図により行い、スライド係用原稿によるものは受け付けません。なおスライドの逆戻しはできません。
- (11) ビデオを使用される演者の方はVHS(またはS-VHS)でご準備下さい。

4. ポスターセッション演者へのご注意

- (1) パネルの有効面積は横130cm×縦150cmです。その上部の演題番号は担当校で用意します(注1)。演題、所属、演者名については、横110cm×縦20cmで各自ご用意下さい(注2)。
- (2) 内容の配置は自由ですが、末尾に必ず結論を書いて下さい。
- (3) 離れても読めるように字の大きさを18mm×18mm以上とし、図表も大きく作製し、読みやすく書いて下さい。
- (4) 講演(ポスター説明)4分、討論時間は4分です。各セッションごとに座長をおき、演者の講演および討論を司会します。講演、討論時間は厳守して下さい。
- (5) 演者は、討論をより十分なものとするため、その群全体の発表終了後30分間ポスターの前で待機して下さい。
- (6) 当日のすべてのポスターセッションの発表は、午前8時30分から9時の間に所定のパネルに展示し、すべての発表が終了してから第3日目(4月8日)は、午後5時30分から午後6時、第4日目(4月9日)は、午後4時から午後4時30分までの間に取り外して下さい。取り外されないものは処分します。



5. インターナショナルセッション演者へのご注意

インターナショナルセッションの発表に関する詳細は別途、演者に連絡します。

XIII. 討論についてのご注意

1. 質問のしかた

- (1) 質問は必ずマイクを使用して下さい。発言は座長の指示に従って行い、まず所属・氏名を述べたあと要領よく簡明にお願いします。スライドの使用は認めません。
- (2) 追加発表は認めません。
- (3) 質疑に関する記録はシンポジウム以外は取りません。シンポジウムの場合は所定の用紙に質問要旨を記入したうえ、必ず会場入口にある回収箱にお入れ下さい。

2. 演者の答弁のしかた

- (1) 演者は発表が終わりましたら、その群の発表が終わるまで待機して下さい。ポスターセッションならびにインターナショナルセッションの場合は座長の指示に従って下さい。
- (2) 質疑に関する記録はシンポジウム以外は取りません。シンポジウムの場合は所定の用紙に回答を明瞭に記入したうえ、必ず会場入口にある回収箱にお入れ下さい。

3. 交見室のご利用

一般講演・ポスターセッション・インターナショナルセッションともに討論時間が不足の場合は交見室をご利用下さい。

XIV. 講演当日ご提出いただく講演要旨ならびに英文抄録について

1. 講演要旨

招請講演・特別講演・シンポジウム・教育講演の演者は機関誌に掲載するための講演要旨を下記の規定に従って作成し、必ず講演当日スライド受付にご提出下さい。

招請講演、特別講演、およびシンポジウムは1演者につき印刷12頁以内、教育講演は1演者につき印刷6頁以内（以上は図表を含む、なおアート紙およびカラー写真は制限頁数内で使用を認めるが実費自己負担となります）の内容要旨とします。これらは本会機関誌8月号に掲載されます。

生涯研修プログラムの講演要旨は本会機関誌9月号の研修コーナーに掲載されます。詳細は追ってお知らせします。

2. 英文抄録

特別講演・シンポジウムの演者は表題、演者名、所属、本文の順にA4タイプ用紙にdouble spaceで600語以内にタイプして下さい。

これら英文抄録は講演当日、スライド受付に必ずご提出下さい。

XV. 評議員会・総会について**評議員会**

1. 日 時 平成8年4月6日(土) 午後3時00分
2. 場 所 パシフィコ横浜
横浜市西区みなとみらい1-1-1
TEL 045-221-2155

総 会

1. 日 時 平成8年4月6日(土) 午後5時30分
2. 場 所 パシフィコ横浜
横浜市西区みなとみらい1-1-1
TEL 045-221-2155

XVI. 学術講演会参加申込

1. 事前登録申込は平成8年2月29日ですでに締切りました。
2. 当日受付の参加費は12,000円です。
(ご注意)
 - 平成8年2月29日(消印有効)までに参加を申込まれた方のみに参加章、学会プログラム集、その他が3月中旬に郵送されます。
 - 3月1日以降に参加申込を取り消されても、払い込まれた学術講演会参加費は返却できませんのでご了承下さい。
 - なお、今回は出席証明シールを第1日(4月6日)生涯研修プログラムに参加された方に1枚、第2日～4日(4月7日～9日)の学術講演会に参加された方にさらに1枚配布します。
3. 生涯研修プログラム・ミートザエキスパート参加ご希望の方は、先着順となりますのでご了承下さい。

XVII. 懇親会について

1. 日 時 平成8年4月6日(土) 午後6時30分
2. 場 所 横浜ロイヤルパークホテルニッコー 鳳翔の間
横浜市西区みなとみらい2-2-1-3
TEL 045-221-1111
3. 会 費 13,000円(平成8年3月1日(金)以降に参加を申込まれた場合)
4. 参加申込
事前にお申込みいただきたくお願い申し上げます。なお、原則として当日は受付できません。
(ご注意)
 - 3月1日以降に参加申込を取り消されても、払い込まれた懇親会費は返却できませんのでご了承下さい。

XVIII. 各大学同窓会

平成8年4月8日(月)の学術講演会終了後に計画されるようにお願いいたします。

XIX. その他

第48回日本産科婦人科学会学術講演会に関するお問合せは下記にお願いします。

〒236 横浜市金沢区福浦3-9

横浜市立大学医学部産科婦人科学教室

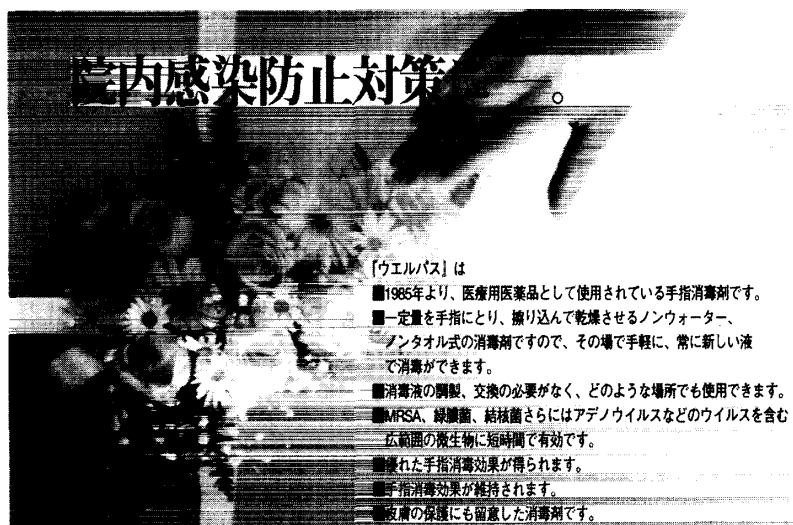
第48回日本産科婦人科学会準備室

TEL 045-787-2691

FAX 045-701-3536

平成8年3月

日本産科婦人科学会会長 水 口 弘 司



院内感染防止対策

「ウエルパス」は
 ■1985年より、医療用医薬品として使用されている手指消毒剤です。
 ■一定量を手指にとり、擦り込んで乾燥させるノンウォーター、
 ノンアルコール式の消毒剤ですので、その場で手軽に、常に新しい液
 で消毒ができます。
 ■消毒液の調製、交換の必要がなく、どのような場所でも使用できます。
 ■MRSA、緑膿菌、結核菌さらにはアデノウイルスなどのウイルスを含む
 広範囲の微生物に短時間で有効です。
 ■優れた手指消毒効果が得られます。
 ■手指消毒効果が持続されます。
 ■皮膚の保護にも留意した消毒剤です。

- 効能・効果
 医療施設における医師、看護婦等の医療従事者の手指消毒
- 用法・用量
1. 医療従事者の通常の手指消毒の場合 本剤約3mlを1回手掌にとり、乾燥するまで摩擦する。ただし、血清、膿汁等の有機物が付着している場合は、十分に洗い落した後、本剤による消毒を行う。
 2. 術前、術後の術者の手指消毒の場合 手指及び前腕部を石けんでよく洗浄し、水で石けん分を十分洗い落した後、本剤約3mlを手掌にとり、乾燥するまで摩擦し、更にこの本剤による消毒を2回繰り返す。
- 使用上の注意
1. 副作用
 - (1) 過敏症 紅斑、痒痒感、浮腫等の過敏症があらわれることがあるので、このような場合には使用を中止すること。
 - (2) 皮膚 刺激症状があらわれることがあるので、このような場合には使用を中止すること。
 2. 適用上の注意

(1) 損傷のある手指には使用しないこと(本品はエタノールを含有するので、損傷部位への使用により刺激作用を有する)。

 - (2) 本剤は希釈せず、原液のまま使用すること。
 - (3) 眼に入った場合、直ちに水洗すること。
 - (4) 石けん類は本剤の殺菌作用を弱めるので、石けん分を洗い落してから使用すること。
 - (5) 本液で消毒した手指で、2.5kg以下の未熟児を取り扱う場合、未熟児の皮膚がかぶれることがあるので十分注意すること。
- ※取り扱い上の注意等詳細につきましては、製品添付文書をご参照ください。

すりこみ
速乾性擦式手指消毒剤

薬価基準対象外

ウエルパス®
WELPAS® 100ml / 300ml
 1ℓ / 5ℓ

Ⓒ 丸石製薬株式会社
 〒541 大阪市中央区伏見町2丁目3番5号
 (文献請求先) 学術情報部